

あおばい3

2021.3
vol.2



コロナ禍でも
地域で活躍する人を紹介



松山 貴さん (荇田西)
荇田西地区社会福祉協議会 会長

松村 欣一さん (あかね台)
田奈地区老人クラブ連合会 会長

佐藤 由佳さん (もみの木台)
すすき野地区保健活動推進員会 会長

表紙の写真
荇田西地区
社会福祉協議会 会長
松山 貴さん

憩いの広場で広がる地域のつながり

インタビュー

まつ
やま
松山

たかし
貴さん

荏田西地区
社会福祉協議会 会長

徳島県出身。仕事の関係で海外生活を送ったのち、青葉区へ引っ越してきた。青葉区荏田西に住んで36年余りとなる。現在は荏田西地区社会福祉協議会の会長として地域のつながりづくりを精力的に行っている。

荏田西

周辺はまだ野原もあり、開発途上だった頃の荏田西に引っ越して来られ、2014年からは荏田西地区社会福祉協議会の会長として地域活性化のボランティア活動を行っています。2020年10月には青葉区役所の補助金を活用し、「荏田西憩いの広場」をオープンさせた松山さんにお話を伺いました。

◆ きっかけ

松山さんは、36年前荏田西に移り住んだ時にメンバーの1人として自治会立ち上げに参加しました。また、ビジネスで訪れた海外では仕事仲間と一緒にボランティア活動も行っていました。

そうした経験から、2014年に周りから自治会の副会長を薦められた時、「少しでも地域のためにやれることがあれば」という思いで引き受けられたそうです。

そして、荏田西地区社会福祉協議会(以下地区社協)としての活動も、この年にスタートさせました。

◆ 地域での活動

松山さんは地区社協の会長になつてから、有志の仲間と新たな活動を次々と始めました。

荏田西ふるさと祭りの焼きそば屋台を始め、餅つき大会、ゆっ

たりバス旅行、名画で楽しむ世界史の会、ウォーキング&昼食会、ラジオ体操、広報誌「社協便り」の発行、地区社協HP開設などです。

現在は、コロナ禍でほとんどの活動はできていないとのことですが、ラジオ体操は、週4回開催されており、荏田西では毎日のように、4つの公園持ち回りで実施されています。そんなに活動を増やしてしまうと負担と感じてしまいそうですが、「地区社協では、事業別に各リーダーが責任を持って実行しているので大丈夫」と、自信をもって話してくれました。どんなことでも、自分1人で抱え込まないのが、継続的に活動を行うコツのようです。

そして2020年、荏田西コミュニティハウスの前庭に地域の誰もが、いつでも気軽に利用できる屋外広場の「荏田西憩いの広場(以下広場)」をオープンさせました。

広場の運営には地区社協を始め、自治会や民生委員児童委員協議会など様々な地域の団体が協力しています。「地域のつなが

りづくりの為に様々なイベントを開催してきたが、もっと自然体のつながりの「場」づくりを目指していた。」と、広場開設の思いを話してくれました。



赤と緑のカラフルなパラソルに彩られた広場
ラジオ体操の様子

◆ 広場の取材とある1日

広場の取材に行ったのは冬の寒空の中でしたが、それにも関わらず、ラジオ体操には30名ほどの人が集まっていました。

ラジオ体操が終わってから、参加者同士で楽しそうに話しているのが印象的でした。地域

のつながりを感じられる一幕でした。また、広場はコロナ禍においても密にならず利用できるため、青空会議の場所としても活用されていました。



ラジオ体操後も楽しそうに話す参加者

富士塚公園内にある広場は「春には桜、初夏には新緑、秋には紅葉が見られるため、これからの季節が楽しみ」と、今後の広場についても笑顔で話してくれました。

暖かくなってくると、利用者ももっと増えていくのではないのでしょうか。

◆ 活動への思い



広場の横にある手作り花壇

「荏田西は、様々な場所から移り住んだ人が多く、地域の外に仕事・学校に行く人も多いため、何もやらなければ住民同士のつながりのない地域になってしまう」と、松山さんは考えています。この危機感から「つながりのあるまちづくりに貢献したい」という思いが生まれ、荏田西の多様な地域活動に結び付いています。その集大成の1つが「荏田西憩いの広場」です。

松山さんの思いが形になり、荏田西の人々のつながりが広がっていきます。

生涯現役で健康づくり

インタビュー

まつ
むら

松村

きん
いち

欣一 さん

田奈地区
老人クラブ連合会 会長

恩田で生まれ育ち、現在は、農業を営む傍ら、地域のためにという気持ちで、長く地元の老人クラブの代表を務め地道に活動を行っている。

あかね台

普段は、開発された町でありながら畑などの自然を残すあかね台周辺で農業を営み、地域の人や地域ケアプラザなどのお祭りで農作物を販売しています。その傍ら、地元の老人クラブの会長も務めています。そんな、農業も地域活動も生涯現役の松村さんにお話を伺いました。

◆ きっかけ

本格的に地域活動を始めたきっかけは、周りの人たちに頼まれて2007年に自治会長と老人クラブ会長を一手に引き受けたことです。自治会長は当番制となっており、1年で交代しましたが、もみじ会（地元の老人クラブ）の会長は15年目、田奈地区の老人クラブ連合会の会長は10年目と、現在も続けられています。

もみじ会では例年、グラウンドゴルフや折り紙、将棋などのサークル活動や地域の清掃活動などを行っています。しかし、「コロナ禍の中で実施できているのは屋外でやるグラウンドゴルフくらい」と、コロナ禍においてなかなか活動を再開できない地域活動の難しさを話してくれました。

◆やるからには全力

頼まれて始めた地域活動ではありませんが、やるからには全力で取り組み、自治会長を務めた時には、自治会館のリニューアルを成し遂げました。松村さんは自治会館の建設委員会の代表として、事業に協力してくれる人を募り、資金集めに奔走しました。

以前の自治会館は、床が抜けるなど利用しやすい状況からは程遠かったそうですが、床やトイレなどをきれいにし、仲間と協力して地域の活動拠点を利用しやすい場所にしました。また、区役所



当時のお話を熱心に話してくれました

への自治会館リニューアルの補助金申請が大変だったとお話される一方で、当時の区役所職員にお世話になったと感謝の気持ちをお話に持ちました。松村さんの人柄が垣間見えるエピソードでした。

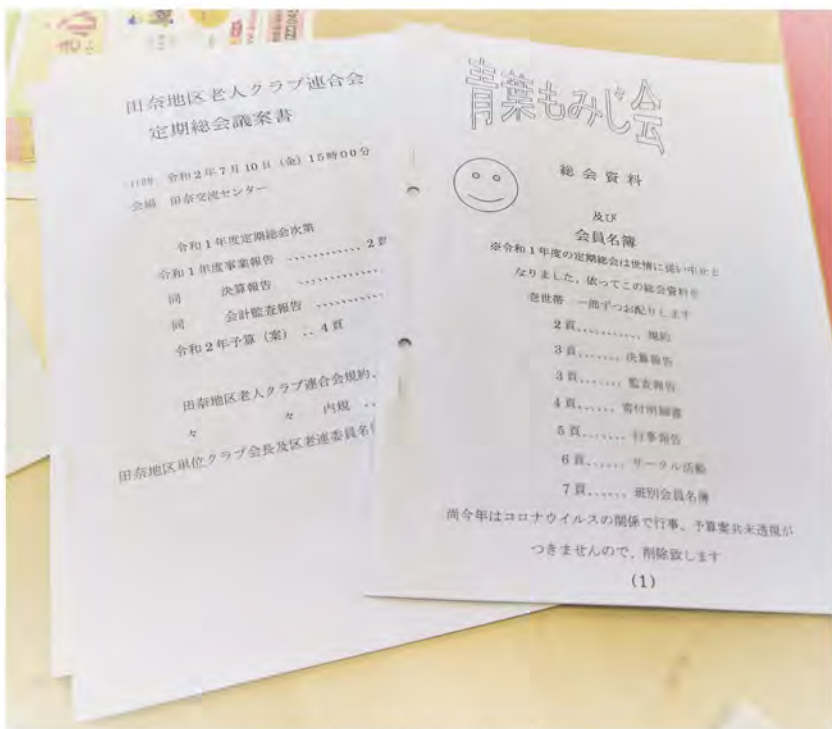
◆新しいことに挑戦

地域活動の醍醐味を伺うと「新たな事業がうまくいったとき」80代になっても挑戦する気持ちを忘れていません。自治会館のリニューアル時の打ち上げ話を伺いましたが、1人ではなく仲間と一緒に事業の成功を味わえるのは地域活動の良さの1つかもしれません。

また、取材時に見せていただいた老人クラブの資料はどなたが作っているか伺ったところ、なんとご本人！しかも「ここに「マーク」のかわいい画像もつけています。パソコン作業も現役です。「資料作成は頭を使うから」と笑って話してくれましたが、常に新しいものを取り入れようとする考えには脱帽です。

◆活動を続けること

あかね台は、古くからお住まいの人たちと新しく来られた人たちが住む町です。「新しく町に住んでくれる人がいるから町が発展する」と、松村さんは新しく来られた住民にも感謝の気持ちを持っていきます。そんな考えをお持ちの方が代表を務めるもみじ会のメンバーも



松村さんが作成した資料

新旧住民が所属していますが「みんな仲良くやっている」そうです。他者への思いやり、感謝、そして挑戦する気持ちを持ち続けることが、農業も地域活動も生涯現役でいられる秘訣だと感じました。これからも、あかね台の町でますます地域活動に取り組んでいくことでしょう。

笑顔で広がるつながりづくり

佐藤

由佳さん

すすき野地区
保健活動推進員会
会長

千葉県出身。家族の仕事の関係で青葉区に引っ越してきた。もみの木台に住んで約20年となる。現在はすすき野エリアを中心に地域活動を行っている。

もみの木台

すすき野地域ケアプラザで受付の業務を行う傍ら、すすき野地区の保健活動推進員として積極的に地域で活動を広げる佐藤さんに、お話を伺いました。

◆きっかけ

順番で回ってきた自治会の班長になったことが、佐藤さんの地域活動を始めるきっかけでした。この当時の自治会長から保健活動推進員の推薦を受けたことから、現在のすすき野地区の保健活動推進員会の会長につながります。

保健活動推進員の主な活動は、地域の健康づくりの推進役として、ウォーキングツアーなどの開催や、すすき野地区のイベントのお手伝いなどを行うことです。

当番で始めた地域活動ですが、地域の人のつながりがたくさんできて、やって良かったと感じたそうです。そのつながりが、今後の佐藤さんの活動の広がりに関係していきます。

◆広がる地域活動

地域活動を行うことで広げた人脈により、さらに活動が広がりま

した。保健活動推進員の活動の二環として2020年に、「まごーるひろば」を開設し、「町を知って健康づくり」という講座も始めました。

「まごーるひろば」は、親子の健康作りと地域の人のつながりを目的とした子育て広場です。民生委員や近隣保育園などの協力も得て、すずき野地域ケアプラザで開催しています。若い頃から健康作りの大切さを知ってもらいたいという思いと、親と子と地域の人がこの場所でもざり合いつながってほしいという思いでスタートしました。

「同世代のつながりだけでは解決できないことも、多世代のつながりの中では解決できたりすることもある。そんな関係作りができたらいいなあと思っている」と、広場のことを話してくれました。



「まごーるひろば」のロゴ
地域の人がデザインをしてくれた

「町を知って健康づくり」では、ただ町を歩くだけでなく、町の魅力を知り地域に愛着を持ってほしいという思いから、区役所主催の講座「みらいづくり大学」に参加してつながった横浜シティガイド協会などの協力を得て、開催しました。



講座の様子

この2つの活動以外にも、不登校やひきこもりがちな若者や家族に関わる活動など、多方面にわたり活躍されています。

◆ やりたいことをやる

なぜこんなに地域で多くの活動ができるのか何うと、「やりたいことをやっているだけ。地域や周りに相談できる人たちがいて、みんなの力を借りている」と、あくまでも謙虚です。そして「相談できる人がいると思うと安心する。安心できる場所があるからこそ、多くの活動ができるのかなと思うている」と、地域に支えられている思いを話してくれました。「周りのみんなのおかげ」という考えを持っているからこそ、佐藤さんの周りには人が集まるのかもしれない。

すでに、様々な活動を実施していますが、「次は子ども向けにお店屋さんごっこをやってみよう」など、活動のこれからについても多くを話してくれました。そこには、活動が負担という気持ちは微塵も感じられませんでした。無理をせず、等身大のまま楽しくやるのが活動を続けるポイントのようです。

終始、楽しそうに話す佐藤さんは、今後も地域の多くの人とつながり、協力を得ながら活動を広げていくのだろうと感じました。



笑顔がステキな佐藤さん



田奈地区
老人クラブ連合会 会長
松村 欣一さん



すすき野地区
保健活動推進員会 会長
佐藤 由佳さん

青葉区地域力応援通信「あおばいろ」

発行元 横浜市青葉区区政推進課地域力推進担当
〒 225-0024 横浜市青葉区市ヶ尾町 31 番地 4
TEL : 045-978-2286 FAX : 045-978-2410

発行日 2021年3月
印刷 株式会社クレコミックス